

せたな町立大成中学校 情報学習会

ネットコミュニケーションをきっかけと
したトラブルに遭わないために

乙部町立明和小学校

教頭 佐々木 朗

平成25年9月10日

本日の話の概略

- ・私がこれまでにしてきた仕事と思い
- ・若い世代のネットコミュニケーション
- ・ネットコミュニケーションの怖さ
- ・情報モラルの必要性
- ・学校・地域ぐるみのルールづくりを

私がこれまでしてきた仕事と思い

- ・大学時代
- ・青年教師時代
- ・中堅教師時代
- ・そして今

若い世代のネットコミュニケーション

- ・ポケベル
- ・携帯電話は、電話ではない。
- ・パーソナルな世界につながる超小型万能コンピュータである。
- ・思春期メディア

若い世代のネットコミュニケーション

- ・電子メール
- ・SNS(ソーシャルネットワークサービス)



若い世代のネットコミュニケーション

・文字のみのコミュニケーション



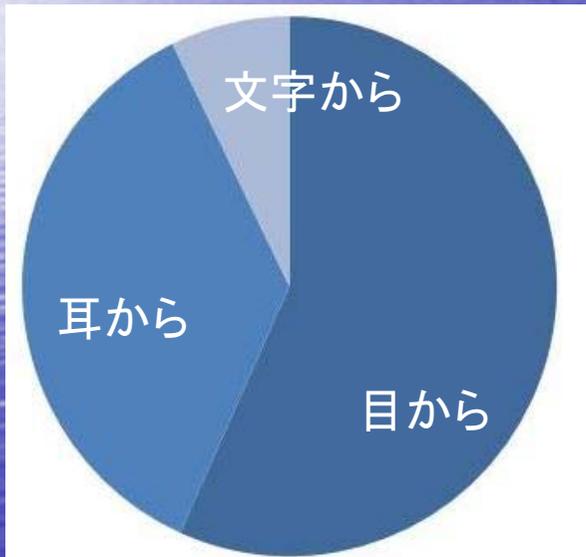
写メ付きのメール

ハズミ「カナ、子ネコが生まれたんだけど、
いらない？」



カナ「ネコは、いいよー」

若い世代のネットコミュニケーション



○目から 55%

見た目・身だしなみ・しぐさ・表情
視線

○耳から 38%

声の質 速さ 大きさ テンポ

○文字から 7%

話すことばそのものの意味

若い世代のネットコミュニケーション

- ・感情を伝えるのは、苦手なツールである。

ネットコミュニケーションの怖さ

その前に

ネットコミュニケーションの便利さ

- ・つながっている安心感
- ・いつでも、どこでも
- ・パーソナルに

ネットコミュニケーションの怖さ

インターネット依存症チェック1 (8問あります)

Q1. インターネットに夢中になっていると感じるか

Q2. 満足を得るために、ネットを使う時間を長くして行かなければならないと感じるか

ネットコミュニケーションの怖さ

ネット依存症チェック2

Q3. 使用時間を減らしたり、やめようとしたりしたが、うまくいかなかったことが度々あったか

Q4. ネットの使用をやめようとした時、落ち込みやイライラなどを感じるか

ネットコミュニケーションの怖さ

ネット依存症チェック3

Q5.意図したよりも、長時間オンラインの状態
でいるか

Q6.ネットのため、大切な人間関係、学校、
部活のことを危うくしたことがあったか

ネットコミュニケーションの怖さ

ネット依存症チェック4

Q7. 熱中しすぎていることを隠すため、家族や先生に嘘をついたことがあるか

Q8. 嫌な気持ちや不安、落ち込みから逃げるためにネットを使うか

ネットコミュニケーションの怖さ

- ・ネット依存
- ・からかい、陰口→ネットいじめ
- ・情報の拡散(友人間だけに収まらない)
- ・なりすまし
- ・個人情報流出(意図的、非意図的)
- ・不正アクセス
- ・匿名の危険性
- ・ショッピング
- ・無料ゲームの危険性

ネットコミュニケーションの怖さ

- ・野良アクセスポイント
- ・違法ダウンロード(著作権)

- ・出会い系 性的被害・加害
- ・社会への不安を与える書き込み

情報モラル教育の必要性

教育の情報化

校務の情報化

- ・電子メール
- ・文書作成・処理
- ・統計処理
- ・ホームページなど

教科等指導 の情報化

学習指導要領に規定

- ・学習ソフトウェア
- ・情報機器の活用
- ・デジタル教科書

情報教育

情報活用能力の育成

- ・PCの基本操作・活用
- ・機器の仕組み
- ・情報モラル

情報モラル教育の必要性

情報教育の目標

情報活用能力の育成を図ること

- A. 情報活用の実践力
- B. 情報の科学的な理解
- C. 情報社会に参画する態度

情報モラル

情報モラル教育の必要性

(情報社会で適正に活動するための基となる
考え方と態度)

- ・情報技術の社会と環境における役割
- ・トラブルに総靴したときの自主的な解決方法
- ・基礎的な情報セキュリティ対策
- ・健康を害するような行動

ネットワーク利用上の責任

・基本的なルールや法律の理解と違法な行為
による問題

・知的材先見など権利を尊重することの大切さ
などについての考え方や態度

情報モラル教育の必要性

- 自分が受信した情報が正しいのか正しくないのかを見きわめる力
- アクセスやダウン・アップロード、情報発信などで、してはいけないことに、心にブレーキをかける自制力
- 自分の発信に責任を持ち、他社に迷惑をかけたら責任をとるという責任感・責任能力

情報モラル教育の必要性

○ネットは全世界が共通の土台

友人しか見ていないという意識はあまりにも危険

○ネット上での失敗

その代償があまりにも大きいことも十分に考えられる

○コミュニケーションは会ってするのが原則

ネットで感情を伝えるのはあまりにも危険

○青春の輝く時間の使い方

ネットにのめり込んでいるのはあまりにも、時間が惜しい。

情報モラル教育の必要性

○困った時は、親や先生に相談をすること

親は、学校は、責任を持って生徒の問題解決に当たることを信じて下さい。

○匿名で発信しても、IPを調べて発信元はわかります。

家庭・学校・地域ぐるみでルール作りを

1 保護者をお願いしたいこと

- ・保護者の責任でケータイ、スマホを与えること
- ・必ず利用に当たって、お子さんの納得のもと約束をすること
- ・約束を守れない場合は、保護者が、取り上げる覚悟を持つこと
- ・フィルタリングサービスに必ず入ること

家庭・学校・地域ぐるみでルール作りを

1 保護者がお子さんとする約束例

- ①利用時間の制限
- ②寝るときは、居間で充電する
- ③知らない人とメールしない
- ④個人情報を書き込まない
- ④通話料金やインターネットへの接続料金の制限
- ⑤アプリのダウンロードは許可を得る
- ⑥通話記録, メール内容や利用記録等のチェック
- ⑦子どもに暗証番号を知らせない

家庭・学校・地域ぐるみでルール作りを

こんな家庭は

ケータイを持たせてはいけない！

- ①ケータイ・スマホの機能についてはよく知らない。
- ②我が子との立場が逆転するときがある。
(最近言い負かされることがある)
- ③我が子を信じている。
- ④我が子との会話が少ない。
- ⑤夜、子どもの方が遅くまで起きている。

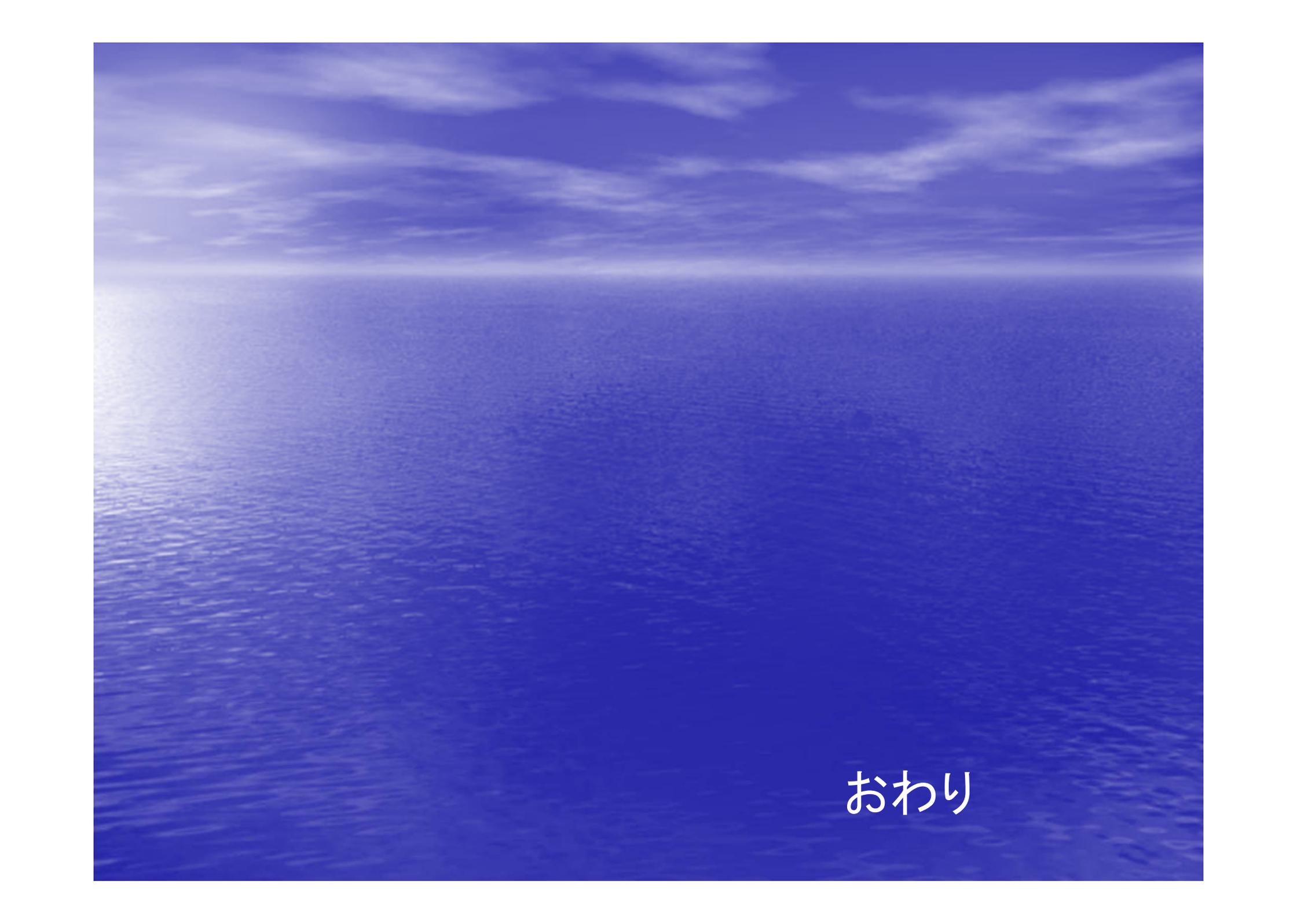
家庭・学校・地域ぐるみでルール作りを

- ・地域、保護者・教師のインターネットのリスクの研修会の実施
- ・生徒にパソコンからしっかり指導し、情報活用能力を高める。
- ・地域ぐるみでルールを作る。
- ・地域でネットの力を活用した事業を展開していく。

家庭・学校・地域ぐるみでルール作りを

生徒会を中心としたルールづくりを

- ・アンケートなどをして、自分たちで、今の学校の現状を把握しよう。
- ・自分たちでルールを話し合って、自分たちで実践していきませんか。
- ・大成のすばらしい実践を発信していきませんか。



おわり